
変人先輩と不良

紫紀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

変人先輩と不良

【Nコード】

N3283K

【作者名】

紫紀

【あらすじ】

いつも午後1時に授業をさぼって屋上で寝ている杉田結花。そこに不良少年(?)が来て・・・。

超気持ちいい。

今日はいつもより風が吹いてるからかな？

まあなんと空の青いことよ。

ここらでちよっと寝よっかな。

「おい！てめえ何してんだよ！！」

いきなり大声を聞かされて機嫌がよいハズなんてないですよ、あははは。

「うるつつつせえよ！！人がせつかく寝ようとしてんのに何なんだよ！安眠妨害罪で訴えるぞ？！つーか誰だよ！！」

大声には大声で対抗してみました。

・・・ウソ。ムカついただけです。短気です。

ていうか安眠妨害罪なんて罪あつたっけ？

まあいつか。私が今作つた！！

「嘘だろ・・・女かよ？！」

「女ですが何か？！つーかアンタ誰？！」

「俺は2年の大島玲人だけだ。」

「あつそう。良かったね！名前なんて聞いてないんだよ！！！」

「聞いたじゃなねえかよ！！アンタ誰つて！」

「うるさいうるさいうるさい！！どうでもいいけど私は今から寝るの！邪魔しないでよ！！」

おっ相手は返す言葉がなくなったみたいだな。
ガキは早く教室に戻って先生の授業でもうけてなさい。
これでようやく寝られる。ああ、睡眠イズオアシスー！！

「つーかそこ俺の場所だからどけよ。」

「……………」

「おい、聞いてんのかよ?!どけよ!俺の特等席なんだよ。」

「……………」

「聞いてんのかよこのクソガキ!!」

ブチッ

「だあああああああああ!!!!うるさいって言うてんでしょ
!わ・た・し・は!今から寝るの!!!!ていうか何?!ガキとか聞こ
えたけど幻聴だよね。あはははははははははは。とりあえず黙れ。」

「俺の話シカトするからだろ!!!!つーかなんだよガキだろ!!」

「ガキはアンタでしょうが!この2年坊主!私は3年なんだからね
!!!!敬え!!」

「はあ?!ウソだろ?!先輩かよ!!!!その童顔で?」

「誰が童顔だオイ!もう聞き飽きたんだよその言葉は!」

「いや、言ったの初めてだし。」

「ていうか何なの?何の用?えーと、田中。」

「田中じゃねえ大島だ!」

「田中だろつが大島だろつが太郎だろつがなんだって同じよ!」

「同じじゃねえ!しかも何で最後だけ名前なんだよ!」

……………疲れたなあ。

「この屋上で俺がいつも寝てんだよ。だからお前どけ。」

「はあ?!ここ私の場所だから!しかもお前じゃないし。杉田結花っていう名前があるんですけど!」

「なんでお前の場所なんだよ!つーか今授業中だぞ?教室もどれよ受験生。」

「じゅ・じゅけ・ごめ、聞こえない。私の耳には聞こえない。」
「現実逃避かよ。」

「ああもつ本当くそ生意気なガキね。あたしは1年の時からここにいの。君は新入り。したがって所有権は私にあるの。分かる?今日は風が吹いてて気持ちいいから寝るの。おけ?」

「いや、ノットオーケー。でもお前と話してても埒があかない気がする。」

「お、悟ったねえ。まあ静かにしてりゃここにいてもいいよ。」
「何様だよ。まあ教室戻る気はねえけど。」

「・・・なんだこの和みムードは。
まあいつか。やっと寝れる。」

「君髪染めると受験の時受かんないよ。」

「君じゃねえ。大島だ。」

「おお大島。初知り!」

「言ったの2度目だし。・・・なあ。杉田だっけか?」

「何?てか先輩つけなさい。先輩を。」

「はいはい杉田先輩。アンタって変人だよな。友達いの?」

「いるよ。友達はたくさんいる。親友が1人。」

「じゃあ彼氏は?」

「彼氏いない歴〓年齢です」

「・・・。」

「哀れまないでよ・・・。」

別に彼氏なんかいなくても困らないし。
とか言っつて自分を慰めてるだけなんだけどねえ。ああ空しい。
ああなんかもうどうでもよくなってきたな。

「どこの大学受けるの？」

「うわっ！こいつ受験の話持ち出しやがった！！信じられなーい。」

「いや、だから現実逃避やめろって。」

「・・・私はー、大学行かない。・・・かも。」

「は？なんで。」

「勉強好きじゃないし。私は自由に生きるって決めてるから。太郎も自由に生きてるんでしょ？不良っぽいし。」

「大島だっつってんだろ！！・・・まあ自由に生きてる・・・んじやね？」

「じゃあそれでいいじゃん。・・・っと。私はそろそろ教室戻るね。」

「結局寝ないで戻るのかよ。」

「うん。だつてもう6時間目始まるし。次美術だから。」

「教科によつて参加不参加決めてんのかよ。」

「まあね。自由人だから。んじゃあ行くわ。」

「・・・。。。」

「・・・お？何？もしかしてさみしいの？」

「は？！別に。まったくもって。これで俺が寝れるから嬉しいだけだし。」

「なーんだよ素直じゃないなあもう。じゃあね！！太田！！」

変な人に会ってしまった。

お陰で今日は寝れなかったし。

・・・まあ面白い奴だったしいつか。
さて美術美術

「・・・おい!!」

まだ何かあるのか!!

「もー何?」

「太田じゃなくて大島だつってんだろ!大島玲人だつってんだ
ろ。」

「はいはい。もう苗字覚えられないから名前で勘弁してね。じゃあ
ね、玲人!」

私は屋上につながるドアを閉めて階段を下りて行った。

「・・・メアド聞くタイミング・・・逃した・・・。」

大島玲人のそんなつぶやきが結花に届くはずもなく。

(後書き)

どうも、紫紀です。2作目です。

何がしたかったのかなんて自分が一番わかりません。

この話のジャンルも分りません。完全な自己満足です

よかったらこんなので感想くれると嬉しいです!!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3283k/>

変人先輩と不良

2010年10月21日21時08分発行